



市川市立妙典小学校



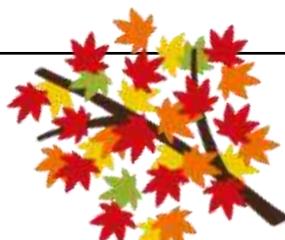
妙典小だよい

Well-being な学校づくり

—子どもが通いたい学校、保護者・地域が通わせたい学校・教職員が働きたい学校

主体性を育てる ~自主・自律・共生~

令和7年11月7日11月号



2025 第79回 読書週間

校長 富永 香羊子

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、1月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心とした2週間)と定められ、この運動は全国に拡がっていきました。そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはかわりありません。(公益社団法人 読書推進運動協議会ホームページより抜粋)



今年の読書週間の標語は「こことあたまの、深呼吸」です。めまぐるしい日常に息が詰まるとき、私は本を開きます。心が震え、ため息をつく。ハッと気がつき、息をのむ。ひと息ついて、まためくる。そうしてこことあたまに酸素が満ちたら、どこまでも遠くへ泳いでいける気がしますと、作者のコメントがありました。

本校では、11/4～11/28 を読書月間として「本に夢中になってもらおう」をテーマに、図書委員会の児童が、「お話給食」や「bingo」、「しおりつくり」など様々なイベントを企画しています。また、先生方によるシークレット読み聞かせ(誰がどのクラスの担当になるかは、くじ引きで決めます)や、保護者ボランティア「あったか読み聞かせ隊」の活動が日常的に行われ、子供たちはたくさんの本に触れています。読書の秋、本とのふれあいで、こことあたまの深呼吸をして、あったかはあとをさらに増やしていきましょう。

■はあとふるコンサート&妙典プレスタ開催

先日、行われましたはあとふるコンサートには、たくさんの保護者の皆様ご参観いただき、ありがとうございました。インフルエンザの流行が心配されましたが、当日は、いつもとちょっと違う緊張感に包まれながらも、元気いっぱいに練習した曲を披露していました。学級閉鎖などで、メンバーがそろわない中の練習でしたが、本番はしっかりと演奏することができ、子供達の成長を感じました。午後からは、PTA・地域の皆様による「妙典プレスタ(プレイ&スタディ)」が開催されました。今年は、あいにくの雨模様でしたが、お神輿体験や様々なゲームに子供達は楽しく参加させていただきました。

PTA本部役員の皆様、あったかサポーターの皆様、施設開放団体や上妙典自治会・青年会の皆様、コミュニティクラブなど、多くの方々のご支援とお力添えに、心より感謝申し上げます。

※皆様からのご感想は、12月号に掲載させていただきます。



■修学旅行に行ってきました！

今年も6年生は、日光方面へ修学旅行に行ってきました。東照宮では、記念写真を撮つたり、様々な建造物を見学したりして、日本の文化と歴史の重みを感じました。日光では、すでに紅葉が始まっていて、どこも多くの観光客でぎわっていました。



その後、インタークリーク（自然ガイド）の方の説明で、戦場ヶ原の自然を満喫しながら木道を歩きました。湯の湖や中禅寺湖、湯滝、竜頭の滝、そして華厳の滝の美しさにも魅了されました。江戸村では、クラスを超えたグループ活動で、思い思いのアトラクションを楽しみました。仲間と過ごした2日間の思い出は、一生忘れることのない、素敵なお記憶として子供達の心に刻まれたことでしょう。

今月（11/7）は、市内音楽会に参加します。一つ一つの行事を終えるたびに、卒業へと近づいていきます。みんなで力を合わせて、あったかはあとで、卒業式まで走り切りましょう。

■国府サミット参加・陸上競技大会参加



コーラス部は、10月18日に市川市文化会館で開催された、「第6回全国国府サミット in 市川」に出演しました。市内の八幡小学校、菅野小学校の合唱部と一緒に、「真間の手児奈」という曲を歌いました。全国から集まった各國府の代表の皆様から大きな拍手をいただきました。作曲者の先生もいらっしゃり、お褒めのお言葉をいただきました。



陸上部は、10月24日に第72回市川市小学校陸上競技大会に出場しました。今年も100m走、走り幅跳び、走高跳びの3種目に5、6年生の選手が出場し、6年生が男女とも走り幅跳びで5位に入賞しました。短い練習期間でしたが、時間を有効に活用して練習を重ねた結果が、入賞につながったのではないかと思います。

■妙典中プロック（塩焼幼・妙典小・塩焼小・幸小・妙典中）定例研修会実施



毎年、近隣の幼稚園、小学校、中学校の教職員が集まって、合同で研修会を行います。昨年は、妙典小が会場となりましたが、今年は、塩焼小学校を会場として行われました。元市川市教育委員会教育次長の小倉貴志先生をお招きして、「これからの中学校と教育～不易と流行～」について、ご講演をいただきました。これまで、市川市教育委員会として子供たちのための行ってこられたことや、これからの学校に求められる役割について、長年の経験の中から、たくさんのご示唆を賜りました。教職員一同、今日からの学校教育に生かしていきます。

■妙典小学校区防災拠点協議会準備会

過去の地震では、学校で多くの方が避難生活をおくり、情報収集、水・食料の供給が行われました。また、学校では日ごろから子どもを介して顔が見える関係があり、助け合いが円滑に行われました。このような背景から、市川市では大地震発生後、市内の小学校を地域の防災拠点とし、小学校区単位で情報収集、災害対策本部や災害班との連携、避難生活支援などを行います。（市川市ホームページより抜粋）

小学校区防災拠点協議会とは、地域住民で構成され、学校職員や市職員と共に、平常時は減災に関する会議（年3回程度）や、避難所運営訓練を行い、災害時は主に避難所運営支援などを行う小学校区防災拠点を地域から支える組織です。このたび、妙典小学校区でも、防災拠点協議会を立ち上げることとなり、準備会が始まりました。これまでに、7月10日と、9月24日の2回が行われ、規約案などが出来上がってきています。協議会のメンバーは、学校運営協議会の方や、地域の自治会長・副会長等です。災害は、いつ発生するかわかりません。平時の時から地域の皆さんのが集まって、話し合いを行ったり訓練を行ったりすることが重要です。保護者の皆様も地域の一員として、地域防災について興味を持つていただけると幸甚です。次回の会議は、11月25日の予定です。